

日本看護歴史学会

会報

日本看護歴史学会
第34号
2000年5月15日

看護史の教育研究環境の課題と改善を目指して

高橋 みや子

昨年、ボストン美術館でゴーギャンの「タヒチの女」(一八九七年)を鑑賞する機会がありました。

その絵の片隅に「われわれは何処どこから来たのか? われわれは何者なのか? われわれは何処へ行くのか?」と書かれており、深い感銘を受けました。

日本看護歴史学会の過去・現在・未来を考える際に大きな示唆を与える言葉だと思えます。

看護史は、現在の看護教育界、看護研究界においてまだ市民権を得ていないとは思えません。

そこで、本稿では看護史と看護教育の現状と課題、最後にそのような状況の改善に向かって学会はどのような役割を果たし得るのかを考えてみました。

まず、看護史と看護教育について

看護史は、看護学概論の中に含まれ、その比重のかけ方は学校の考え次第です。看護史の研究者が少ないこともあり教育内容や教育方法さらに授業展開の検討までは手が及ばず、お茶を濁している状況です。

今、大きな変革期にある看護界にとって、教育の場で看護と看護学の発達の経緯、将来方向等を展開し、その中で学生各個人が自身の歴史を見る目を養うことが重要な課題だと考えられます。

次に、看護史と看護研究について、看護史の研究者は徐々に増加してきましたが、看護学研究の他分野の人口に比して極めて少数派です。そのため、研究者を取り巻く

研究環境は極めて厳しいと言わざるを得ません。

まず、看護系大学院修士課程三十六校、博士課程十一校となった現在でも、看護史を研究課題として取り扱う大学は極めて稀です。

看護史の研究者が少ないことも相まって、看護史の研究方法に関する適切な教本がない現状です。看護史の研究領域は多岐に亘るので、今後研究方法毎に研究計画及び実践例も含めた教本作成が必要となってきました。

さらに、看護史に関する基礎的史料類の整備があげられます。看護史の史料に関する目録や所属目録類はまだ整備されていません。看護史研究を目指しても、先ず研究方法、次に史料収集で困難を覚え放棄する例が多いようです。このように看護史を取り巻く研究環境の整備が大きな課題となっています。諸々の整備が推進されることによって、研究者が増加し看護界において市民権を得ることができると考えられます。

このような今日、日本看護歴史学会としてどのような役割を果たすことができるのか、現実的に役立つ実施可能な課題を提案します。一つは日本国内及び海外の看護史の史料の所在目録や所蔵目録の

作成を行うことです。看護史の史料を所蔵している機関や機関の所蔵史料に関する調査は皆無でした。研究者は経験によって探し当て利用している状況です。研究を推進するためには、誰でも利用可能な目録類を整備する必要があります。

二つは看護史に関する研究成果の情報を整理することです。看護史の研究成果は看護学は勿論、他領域の学術雑誌や学術誌以外の一般雑誌に掲載され散在しています。研究者が情報収集しやすい方法を早急に検討する必要があります。

一、二を実施するためには、それに要する経費を何らかの形で調達する必要があります。また、全国各地の人々や海外情報に詳しい人々の情報提供等、幅広い協力を仰ぐ必要があります。

三つは日本看護歴史学会の分科会の活性化を図ることです。大会時に積極的に企画し、会員や招聘講師を中心に研究者同士の情報交換、情報提供と指導、分科会をきっかけに共同研究を行う場として活用できるようにします。今後、看護史の教育研究が発展できるための一助となるように、実施可能な具体的課題に積極的に取り組んで行きたいものです。

日本看護歴史学会第十四回大会

つぎの要領で開催します。

大会テーマ

「二十一世紀への宿題〜歴史にみる看護の知慧」

近代の科学・物質文明の進歩に伴って看護もその理論・制度・管理・教育のあらゆる分野で、めざましい発展を続けてきました。前年度大会テーマ「世紀を越えて、看護の未来」を踏まえて、今年「温故知新」の歴史の視点から発展の中に積み残してはならないものは何か、二十一世紀に何を繋いでいくべきかを考える機会にしましょう。

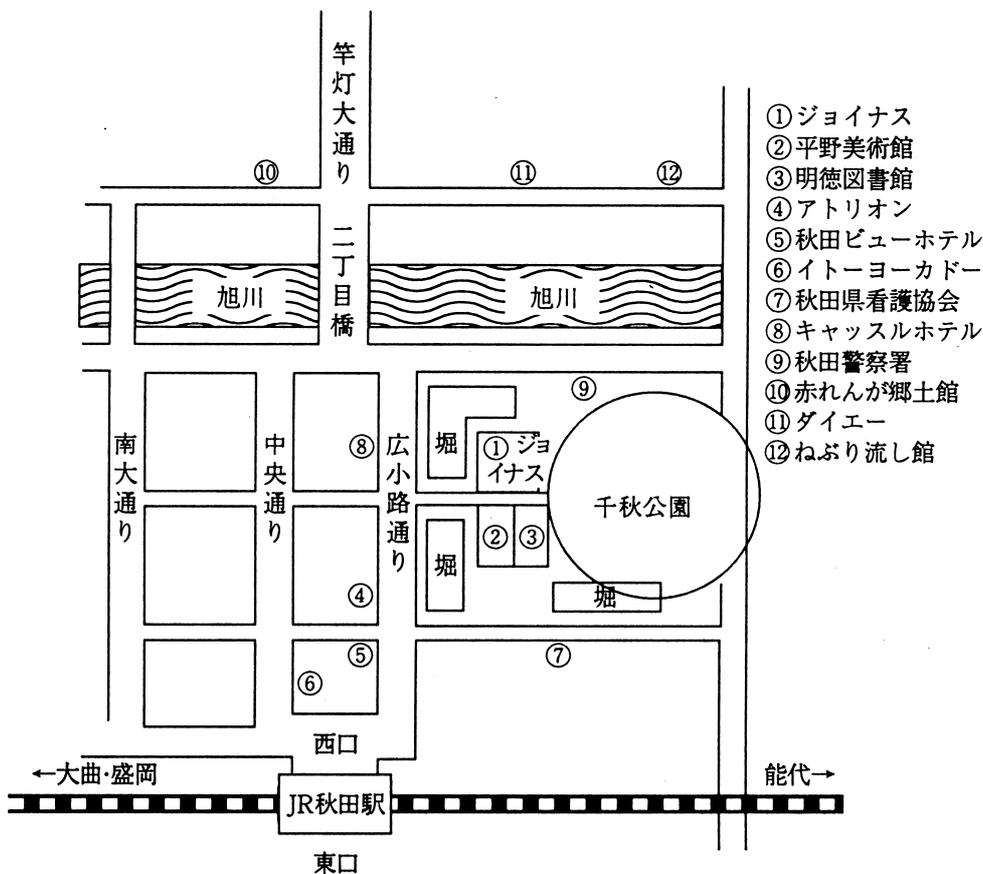
日時 八月二十三日(水) 十時〜十七時
二十四日(木) 十時〜十二時

会場 秋田県生涯学習センター分館「ジョイナス」
秋田市千秋明徳町二一五二

JR秋田駅より徒歩七分、旧久保田城跡千秋公園の入口にあり、お堀には大賀蓮の花が美しい所です。
会館周辺には美術館・図書館・博物館などがあります。

プログラム

- 一 会長講演 大会長 山本 捷子氏
「歴史に学ぶ看護の智慧・わざ・こころ」
- 二 特別講演 秋田大学教育文化学部教授 對馬 達雄氏
「反ナチ抵抗運動と教育の改造」



千秋公園内には御隅櫓と佐竹資料館があり、散策と歴史探訪が楽しめます。

